

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 調査報告概要表

作成日 成 19 年 5 月 13

【評価実施概要】

事業所番号	4671200378
法人名	(事業主体名) 有限会社グッドライフ
事業所名	グループホーム てんとうむし
所在地	鹿児島県霧島市国分井上903番地2 (電話) 0995-47-4672
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島県真砂本町21-5前田ビル1F
訪問調査日	平成19年5月13日

【情報提供票より】(平成19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 7 月 5 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 6 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	6.6 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1階建ての	1階	~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000/36,000/42,000 円		その他の経費(月額)	円
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.5 歳	最低	73 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・福山病院 ・清水整形外科病院 ・愛歯クリニック
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国分インターチェンジから車で5分ほどの自然豊かな田園風景の中に建っている。運営者の自宅を改築したホームは、手入れの行き届いた広い庭に花が咲き誇り、ホーム内からも季節の移り変わりを身近に感じることができる。運営者はじめ管理者と職員は、利用者が地域の中で穏やかに安心して暮らすことを大切に考えており、利用者と寄り添い、ゆったりとした時間を共に過ごすよう心がけている。職員の質の向上に向けた育成にも取り組んでおり、職員のケアに対する意識も高いホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で、食事摂取量だけでなく、摂取カロリーと水分摂取量の把握が改善課題となっており、四ヶ月に一回定期的に栄養士から、献立のチェックとアドバイスをしてもらおう体制にすることで改善している。洗剤の保管については、職員で検討し適切な管理を行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	それぞれが自らのケアを見直す機会ととらえ、運営者をはじめ職員全員で自己評価に取り組み、ケアの質の向上に努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	公民館長・民生委員・老人クラブ代表・家族代表・包括支援センターなど、幅広い立場の人が出席し、評価への取組状況の報告や評価結果について、意見や質問を出してもらおうようにし、その意見をサービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の暮らしぶりや状況を積極的に家族に報告し、職員と家族のコミュニケーションを大事にしており、何でも言ってもらえるような関係作りに留意している。訪問時に職員の方から意見や要望等を何うように努めている。要望も小さな苦情として受け止め、職員で話し合い対応している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の運動会や夏祭りなどの行事に積極的に参加したり、ごみ収集所の掃除ボランティアを毎週行うなど、地域住民の一員として積極的に関わりを持つよう努めている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人名「グッドライフ」とホーム名「てんとうむし」に込められた思いを事業所独自の理念とし、地域とのかかわりを大切にされた内容となっている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム内に掲示し、管理者は日々のケアの中で、常に理念を意識しながら取り組むよう職員に話している。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会や夏祭り等の行事に積極的に参加したり、ごみ置き場の掃除ボランティアを毎週行うなど、地域の一員として積極的に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で取り組み、サービスの質の向上に努めており、前回の評価結果を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	公民館長・民生委員・老人クラブ代表・家族代表・包括支援センター職員等、幅広い立場の人が出席し、評価への取組状況の報告や出席者から意見・要望を出してもらい、それをサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者に日ごろから、積極的に現状報告や相談をしており、サービスの質の向上に共に取り組む関係ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に、暮らしぶりや状況を伝えたり個別のアルバムを見てもらっている。健康状態や健診の結果はその都度報告し、職員の交代は訪問時や花見の時紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談箱を設置したり、家族が気軽に話せる関係作りや雰囲気や心がけており、家族の訪問時には意見や要望などを聞くようにしている。出された要望も小さな苦情として受け止め、対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	代表者は、職員の働きやすい職場づくりに努めており、馴染みの職員によるケアを心がけている。代わる場合も利用者నికిちんと紹介し、不安を抱かせないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や習熟度の段階に応じた研修への参加を促し、学びの機会を確保している。研修内容を職員会議で報告し、全職員で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	始良郡のグループホーム協会に加入しており、研修会に参加し情報交換や交流を行っている。他のグループホームで研修したり研修を受け入れる等の活動を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に本人にホームの見学をしてもらい、職員や環境などに馴染んでもらえるよう支援している。利用開始後も家族の訪問回数を多くしてもらおう等、安心感への配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	寄り添い、支えあう関係を大切にしており、利用者に人生観を話してもらい職員が学ぶ場面も多くある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中から、利用者の希望や思い・意向を引き出し把握するように努め、行動や表情からも汲み取るよう心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望や意向を反映させ、担当者会議で職員の意見を取り入れた個別の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間が終了する前に見直し、本人や家族の意向を確認しながら、現状に即した介護計画を作成している。状態が変化した時は随時、検討見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助は、基本的に家族対応としているが、家族の状況や要望に応じて通院の支援を行っている。今後は自宅で暮らす認知症の方の通所介護を検討している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医と連携を図り、往診や通院など、必要な時に適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度者や終末期のケアは行わない方針であることを入居前に説明し、同意を得ている。重度化による退居の検討や決定は、主治医の判断を基に職員会議で話し合う体制となっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員会議で個人情報の保護の徹底やプライバシーの確保について、職員の意識の向上を図ると共に、個人記録の管理やパンフレット作成時に写真掲載の了解を得るなど、プライバシーに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの体調に配慮しながら、その日の希望の過ごし方やペースを尊重した暮らしの支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や新鮮な材料をとり入れ、皮むきや下ごしらえ等、利用者の個々の力を活かしながら職員と一緒にやっている。落ち着いてゆったり食事ができるよう、音楽や雰囲気にも配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの習慣や好みに合わせた入浴の支援を行っている。入浴の際の羞恥心や負担感・抵抗感のある方への声かけや対応にも配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	若い職員に対して人生観を話してもらったり、食事の味付けや新聞たたみなど、一人ひとりに合った役割や楽しみを見つけて日々の生活の中で発揮してもらえよう、声かけや場面作りに取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩に出かける方や天気の良い日は、庭に出て過ごし戸外に出る機会を作っているが、一人ひとりの希望に副った外出の機会は少ない。	○	利用者が重度化している場合でも、その日の利用者の状態や希望などに応じて、日常的に戸外へ出ることを支援することが期待される。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出傾向のある利用者の行き先を把握しており、出て行く気配を職員が見落とさない見守りの体制がある。外出の気配を察知したら、一緒に散歩に出かける等の支援を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年一回消防署の協力の下、避難訓練・消火訓練・通報訓練を行い、夜間を想定した訓練も独自に行っている。緊急時の避難について、近隣住民の協力も依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好を把握し、希望を献立に採り入れている。食事摂取量は個人記録に残し、水分摂取量は大まかに把握している。四ヶ月に一回栄養士に点検と専門的なアドバイスをしてもらっているようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓から山や田んぼの四季折々の風景が望め、季節の移り変わりを感じられる居心地の良い空間となっている。装飾も家庭的な雰囲気を壊さないよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や使い慣れた日用品が持ち込まれ、家具の配置や手すりの取り付け位置も工夫し、居心地よく過ごせる居室作りに取り組んでいる。		